

第三種郵便物認可



澄んだ歌声を披露した波田小学校合唱部の児童

# 闘病 負けないで

波田からベラルーシへ歌声の応援

松本市に事務局を置くNPOの日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)は二日、波田町内のホールでコンサート「響け チェルノブイリへ わたしたちのハート」を開いた。波田小学校合唱部の約六十人が出演。ベラルーシで闘病生活を送る子どもたちに向け歌声を響かせた。JCFは、その様子を収めたビデオを現地の病院や学校に贈る。

子どもが合唱部に所属する波田町立総合病院勤務の藤牧久美さんが、不要の医療機器を同国に送って使用方を指導するJCFの事業に参加したことがきっかけで、コンサートが実現した。

開会式でJCFの神谷さだ子事務局長は「歌声で励ましてあげて下さい」とあいさつ。児童たちは曲の合間に「白血病やがんで悩んでいるのに頑張っていますね。一生懸命歌います」となごみ語りかけながら、「故郷(ふるさと)」「赤とんぼ」を歌った。

## 児童の映像 現地に

ほなど九曲を履みきった声でホールいっぱい響かせた。

コンサートには、ジャズピアニストの河野謙弘さんも出演。父母や近くの住民ら約三百人が、一緒に歌ったり体でリズムをとったりして楽しんだ。

都内から訪れたベラルーシ大使館のステトラナー・カミツェビッチさんは「病気の子どもたちを励ましてやることでサポートすることが必要。コンサートは大きな支えになります」と話していた。